

天文ハイキング [V]

武蔵大國魂神社の算額

和算と天文歴史との関係は深い、算額と天文との関係は直接にはないとはいえ算額を見歩くことも天文ハイキングの好材料として許されるだろう。

6月の或る日私達一行は若葉の匂う大門櫛並木(史跡名勝天然記念物)をめぐり武蔵総社、府中市の大國魂神社を訪れた。ここは闇夜祭、縁結びの神として関東一円に知られているが、ここに奉納された算額は今は境内宝物館に掲額されている。

明治18年3月(1885)関流和算の流れを汲む南多摩郡矢ノ口村(稲城市)の小侯 勇は「数現図解」を著し門人36名の算題と漢文にてその解を記載して神社へ奉納した。この算額は標題に「奉献関流数学小侯勇門人算題」と大書(縦1m22cm, 横2m22cm)の大きさで一行12名づつ3段にわかれ今は文字が薄れているけれども実に立派なものである。小侯は天保11年10月14日(1840)武州矢ノ口村の農家に生れ少年のころ和算を独修し、後に芝の関流福田理軒の教えを受け郷里に帰り塾を開く、門人たちは師の人徳を慕い後に「小侯 勇寿碑」を建てたのが今でも矢ノ口穴沢天神に残っている。今、試みに36問中登戸村(川崎市)吉沢徳次郎の問題とその解「術に曰く」を第1図に示してみよう。これをみて吾々天文ハイキングの仲間にもなかなか難しくヘロンの公式を用いて解いたものもいた。又、「術に曰く」の如く簡単に出来るものとは思われず本当にそれがヒントになっているのかと考えこんでしまうものもいた。徳次郎は測量術にもすぐれ多摩川の堤防の測量も幾度かした。徳次郎は呉服の行商人でありこの他門人の中には農業、僧侶、荒物屋など出題者は凡ゆる職業の庶民にわたっている。和算家はギルド的な流派の下にあったとはいえこの時代

今有如図外円内容等円三個  
甲二個乙二個丙内一個  
甲内径七寸 問乙内径幾何  
答日 乙内径九寸  
術日 置甲内径九寸七師之  
得乙内径合問  
登戸村 吉沢徳次郎選

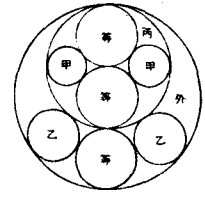


図1 吉沢徳次郎の算額  
大國魂神社算額写による

に一般庶民の中に高次な数学が拡がっていたことはわが国文化史上誠に驚くべきことである。

- 交通 京王電鉄 府中駅より 10分
- 南武線 府中本町駅より 10分
- ハイキング参考書 大國魂神社発行関流和算額  
佐藤健一 多摩の算額  
角田益信 川崎市北部の関流和算  
(箕輪敏行)

◇ 5月の天文暦 ◇

日	時	記	事
4	13	朔	
4	14	月	最近
5	24	立	夏 (太陽黄経 45°)
11	7	上	弦
18	3	月	最遠
19	9	望	
19	13	天王星	衝
21	13	小	満 (太陽黄経 60°)
27	6	下	弦
27	13	水	星 東方最大離角
28	18	木	星 留

◇ 5月の日月惑星運行図 ◇

